

紀勢自動車道（南紀田辺 IC ～すさみ南 IC）、那智勝浦新宮道路（那智勝浦 IC ～市屋間）開通に伴う整備効果について

国土交通省 近畿地方整備局 紀南河川国道事務所 調査第二課

1. はじめに

紀勢自動車道（田辺～すさみ）（以下、紀勢道）と那智勝浦新宮道路（以下、那智勝浦道）は、大阪府松原市を起点に、三重県多気郡多気町に至る延長約 340km の国土開発幹線自動車道の一部を構成する道路です。

本道路は紀伊半島の各都市と国土軸を結び、輸送時間の短縮や国道 42 号の混雑緩和を図り、地域相互の産業、経済、文化、観光の振興と発展に資することを目的とする道路です。

紀勢道の南紀田辺 IC ～南紀白浜 IC 間（延長：14km）が平成 27 年 7 月 12 日、南紀白浜 IC ～すさみ南 IC 間（延長：24km）が平成 27 年 8 月 30 日、那智勝浦道の那智勝浦 IC ～市屋間（延長：6.3km）が平成 27 年 9 月 13 日に開通しました。

紀勢道と並行する国道 42 号は、土砂災害や越波の影響を受けやすく、平成 23 年 9 月の台風 12 号接近の際も、24 時間以上の通行止めが実施されました。今後発生が予想される南海トラフの巨大地震等の際には、国道 42 号も津波浸水被害が予想され、緊急車両の通行も危ぶまれます。

紀勢道、那智勝浦道は、津波浸水予想高さより高い場所に整備され、国道 42 号が通行出来ない場合でも、代替路として機能する「命の道」となります。（図 1）



図 1 近畿自動車道紀勢線全体図

紀勢道は、平成 15 年 12 月に南紀白浜 IC ～すさみ南 IC 間、平成 18 年 2 月に南紀田辺 IC ～南紀白浜 IC 間が新直轄方式へ移行され、平成 20 年度から用地及び工事に着手、那智勝浦道は、那智勝浦 IC ～市屋間が平成 18 年度に事業化され、平成 22 年度から用地及び工事に着手し、共に昨年度開通しました。(写真 1)



写真 1 開通直後の南紀田辺 IC

2. 工事の概要

今回の開通区間 44.3km は、トンネルが 30 本 (23.3km)、橋梁が 51 橋 (7.8km) あり、これらのトンネルと橋梁を合わせた構造物が全体の約 7 割を占める状況となっています。これは、前述した「命の道」としての機能を確保するため、沿岸部から離れた高い場所に整備したためです。(図 2)

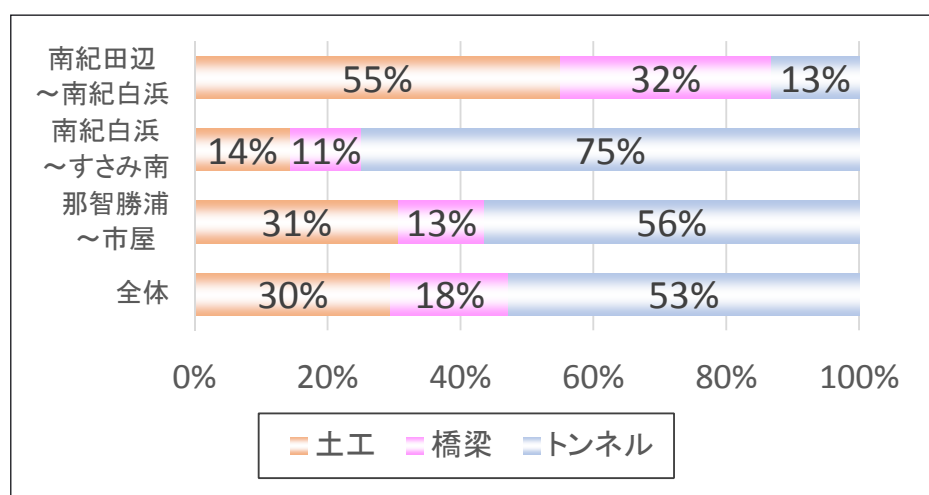


図 2 構造別延長比率

紀勢道、那智勝浦道では、南海トラフの巨大地震等による津波浸水や河川洪水時の避難活動を支援するため、道路の整備にあわせ、管理用通路や工事用道路等を活用した緊急避難路や一時避難場所の整備を行っており、これまで避難場所が遠かった地域などにおいて、新たな一時避難場所として利用できるなど、地域住民の避難時における安全性の向上が期待されます。

また、工事用道路のうち 1 カ所については、二次救急医療機関の近隣であったことから、救急車両専用の緊急退出路として整備し、南紀田辺 IC ～上富田 IC 間の先行開通から H28 年 2 月末までの 7 ヶ月余りで約 60 回の利用がありました。(写真 2)

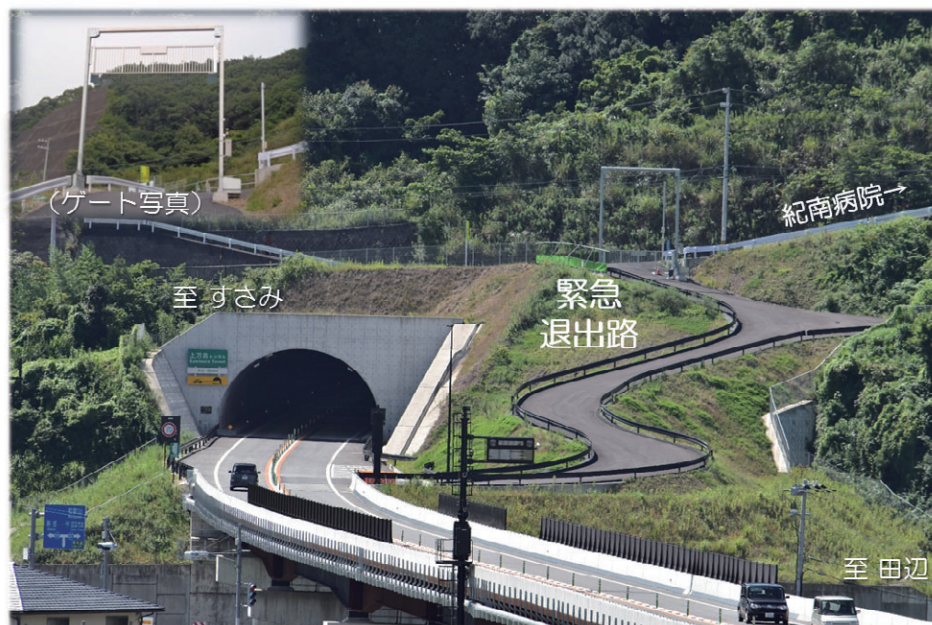


写真2 工事用道路の緊急退出路としての活用

3. 交通量の変化

開通後6ヶ月の平均交通量は、紀勢道が南紀田辺 IC～すすみ南 IC 間で約 10,400 台/日、那智勝浦道が那智勝浦 IC～市屋間で約 7,600 台/日でした。

既に開通している阪和自動車道（みなべ IC～南紀田辺 IC）でも約 6% 増加しています。

開通区間に並行する国道 42 号では高速道路への転換により減少しましたが、開通区間より先の串本町では 7 割以上増加した区間もみられました。（図 3）

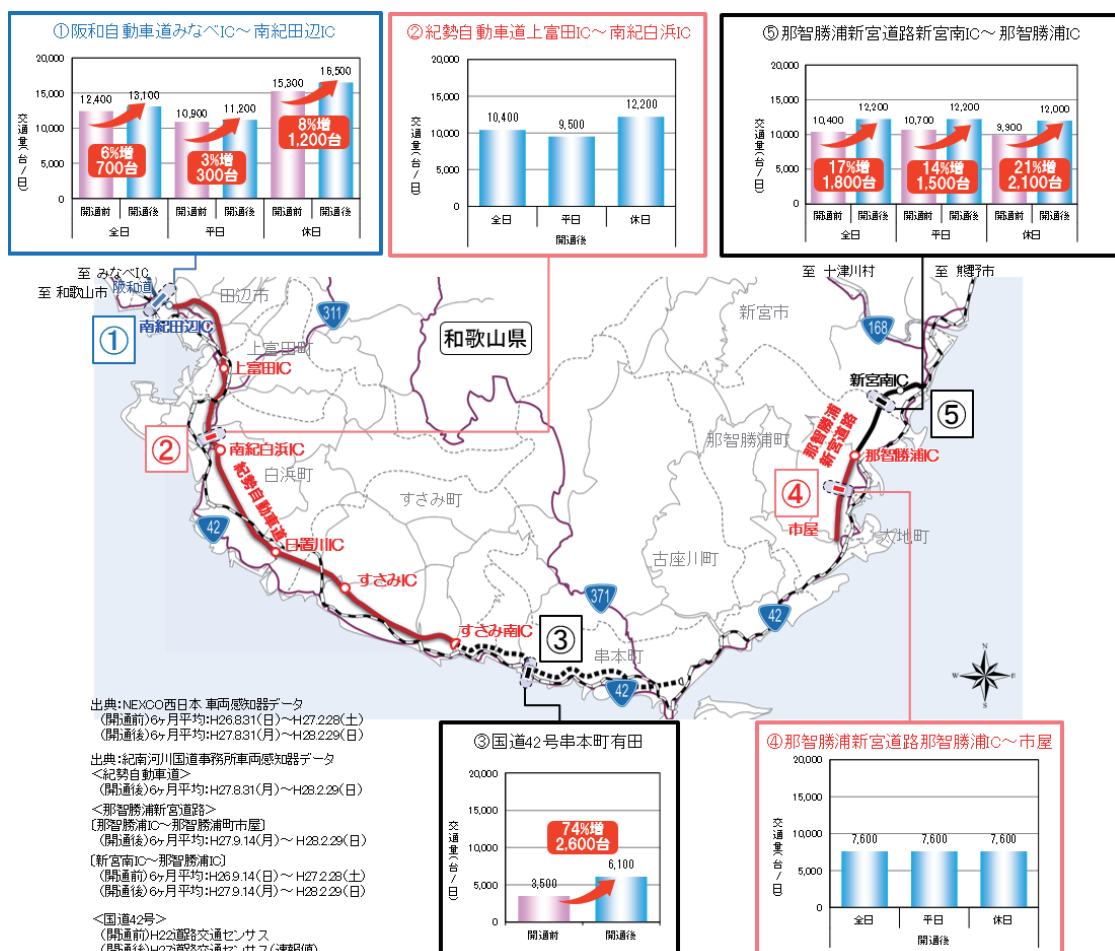


図3 開通後の交通量の変化

紀勢道の開通前は、特に休日の観光交通の集中により、渋滞が発生していた田鶴交差点で、渋滞の緩和が見られた他、市内の各所では渋滞がほぼ解消に至っています。(写真3)



開通前:平成26年8月16日(土)
国道42号白浜向き



開通後:平成27年8月15日(土)
国道42号白浜向き

写真3 渋滞の緩和状況(田鶴交差点付近の国道42号)

4. 整備効果の発現

今回の開通により、紀勢道、那智勝浦道が南伸したことで、県内有数の観光・レジャー地域である白浜町、すさみ町、さらには開通区間の先に位置する串本町など沿線市町に、観光面を中心に様々な整備効果をもたらされています。

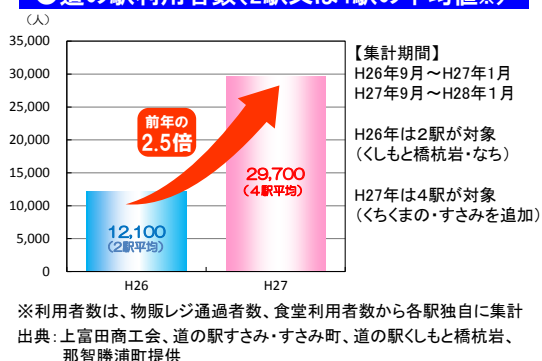
紀勢道の開通にあわせて開所した沿線の道の駅についてみると、道の駅くちくまのは約2万人/月、道の駅すさみは約7

万人/月が利用しています。紀勢道、那智勝浦道沿線の主要な道の駅の平均利用者は前年比で約2.5倍に増加しています。また、観光客の推移をみると、沿線市町の観光客数(日帰り+宿泊客計)は前年同月比で最大約1.2倍に増加しています。(図4)

現在事業中のすさみ串本道路が開通すれば、京阪神や中京方面から更に近くなり、引き続き観光客の増加が期待されるところです。



●道の駅利用者数(2駅又は4駅の平均値※)



●沿線市町の観光客数(日帰り+宿泊※)

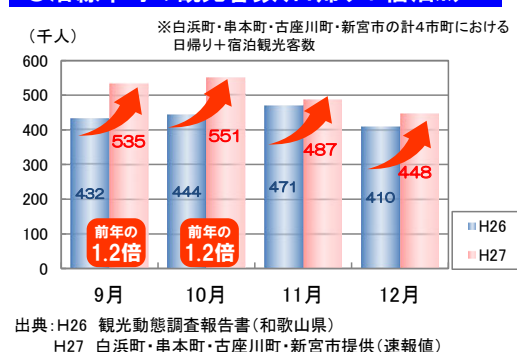


図4 観光面での整備効果

産業面以外では、今回の開通により、紀南地域の救急医療施設 60 分圏域が拡大し、圏域人口が約 1 万 5 千人増加しています。また、救急搬送時間が紀勢線で約 19 分短縮されました。（図 5）

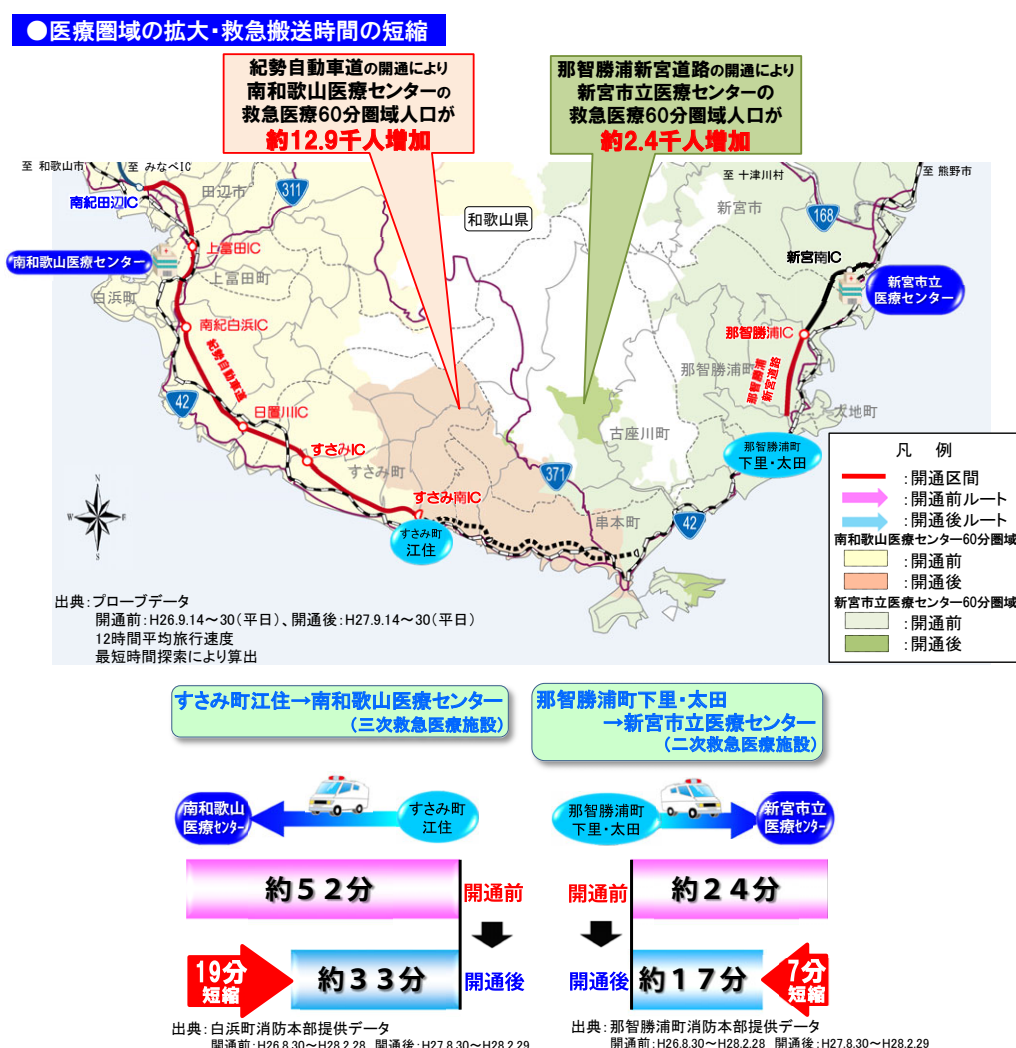


図5 医療圏域の拡大効果

5. おわりに

紀勢道、那智勝浦道の開通によって、京阪神や中京方面から紀南地域がぐっと身近になり、今回開通した区間の沿線市町村では様々な整備効果がみられました。また、開通区間の先に位置する串本町にも大きな整備効果がもたらされたことから、紀南地域の活性化のために引き続き事業を進めていくとともに、将来の南海トラフの巨大地震等による津波などの被害が危惧されている紀南地域において、沿線地域を守るための「命の道」としても整備を進めていくことが肝要です。

今夏、開通後1周年を迎え、新たに市町による「紀勢自動車道利用促進実行委員会」を立ち上げ、利用客の増加が開通効果による一過性のものにならないよう、地域の観光イベントを一体的にPRする「利用促進記念イベント（1周年）」を行い、沿線地域を盛り上げていきます。

今後も引き続き、紀勢道、那智勝浦道沿線地域の観光産業はもとより地域の方々への様々な整備効果に着目し、引き続き関係機関と連携しつつ、事業推進に努めて参る所存です。